

平成26年度 形質転換植物デザイン研究拠点 共同利用・共同研究課題一覧(全32件)

	代表研究者	代表研究者所属	研究課題名
1	伊藤 秀臣	北海道大学 大学院理学研究院	環境ストレス活性型トランスポゾンを用いたストレス耐性植物の作出
2	渋谷 健市	農業・食品産業技術総合研究機構 花き研究所	アサガオSPL遺伝子の花弁老化および花成反応における役割の解明
3	松下 智直	九州大学 大学院農学研究院	構造学的情報を利用したフィトクロムB新奇下流因子の探索
4	武宮 淳史	九州大学 大学院理学研究院	青色光による気孔開口のシグナル伝達機構の解明
5	久保山 勉	茨城大学 農学部	アサガオの開花関連遺伝子の探索と解析
6	古本 強	龍谷大学文学部 農学研究所	HOS1-ICE1複合体とPIF4の結合可能性を逆遺伝学的解析により証明する
7	飯田 秀利	東京学芸大学 教育学部	植物の低温シグナル伝達におけるカルシウムイオンの役割に関する分子機構の解明
8	多田 安臣	香川大学 総合生命科学研究センター	サリチル酸合成系を制御する転写因子群の特徴付け
9	乾 秀之	神戸大学自然科学系 先端融合 研究環遺伝子実験センター	形質転換トマトを用いた脂溶性物質輸送タンパク質の機能解析
10	藤田 泰成	国際農林水産業研究センター	トマトにおけるABA/ストレスシグナル伝達機構の解明
11	加藤 文幸	株式会社日本農林社	遺伝子組換え植物を用いた新規耐病性品種の作出
12	藤原 義博	株式会社プリベンテック	植物を用いたウイルス様粒子(VLP)ワクチンとアジュバント生産の研究
13	中野 雄司	理化学研究所 長田抗生物質研究室	ブラシノステロイド情報伝達遺伝子群の形質転換によるトマトへの有用形質の導入
14	中川 強	島根大学研究機構 総合科学研究支援センター	ナス科作物を宿主とした複数遺伝子導入システムの開発
15	児玉 豊	宇都宮大学 バイオサイエンス教育 研究センター	簡便かつ高効率なゼニゴケ形質転換技術の確立
16	小関 良宏	東京農工大学 大学院工学研究院	環境ストレス耐性遺伝子組換えイモ類の作出
17	佐藤 長緒	北海道大学 大学院理学研究院	14-3-3タンパク質を介した植物栄養素代謝ネットワークの解析
18	中村 郁郎	千葉大学 大学院園芸学研究科	トマト改変GAI遺伝子を用いた多収性トマト形質転換体の作出
19	泉井 桂	近畿大学 先端技術総合研究所	C4ミニサイクルのC3植物(トマト)への導入による光合成能の増強
20	田茂井 政宏	近畿大学 農学部	二酸化炭素固定能力を強化した植物の実用利用開発
21	寺川 輝彦	北興化学工業株式会社 開発研究所	花生殖器官を改変した形質転換シクラメンの生物多様性影響評価
22	河岡 明義	日本製紙株式会社 アグリ・バイオ研究所	耐冷性遺伝子組換えユーカリの隔離圃場栽培試験

	代表研究者	代表研究者所属	研究課題名
23	松永 悦子	日本製紙株式会社 アグリ・バイオ研究所	耐塩性ユーカリの特定網室での栽培試験
24	田部井 豊	農業生物資源研究所	遺伝子組換えナタネから我が国のカラシナへの遺伝子浸透に関わるカラシナの特性と生物多様性影響に関する考察
25	間 竜太郎	農業・食品産業技術総合研究機構 花き研究所	遺伝子組換え青色キクの実用化に向けた生物多様性影響評価における形質転換植物評価技術に関する研究
26	高根 健一	株式会社インプランティノベーションズ	隔離圃場栽培における形質転換トマトの形質評価に関する研究
27	加賀 秋人	農業生物資源研究所 ダイズゲノム育種研究ユニット	遺伝子組換えダイズの導入遺伝子環境拡散リスク評価モデルの精緻化
28	大宮 あけみ	農業・食品産業技術総合研究機構 花き研究所	黄花アサガオの再現～江戸期に存在した花きの再現を通じた遺伝子組換え植物の国民的な認知に向けた試み～
29	仁田坂 英二	九州大学 大学院理学研究院	転移酵素遺伝子導入による江戸期の変化朝顔誕生の再現を通じた遺伝子組換え技術の国民的理解の促進
30	田部井 豊	農業生物資源研究所	生産者における遺伝子組換え作物及び遺伝子組換えカイコに対する意識調査
31	佐々 義子	NPO法人くらしとバイオプラザ21	メディアガイドラインの策定
32	真山 武志	NPO法人くらしとバイオプラザ21	誰でもできるGMO編バイオ・カード・ゲーム(BCG)の開発